

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	アストラポルテ FC土浦		公表日		2025年3月24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	約193㎡の広いスペースを確保している。	室内で運動をするにあたって、193㎡があっても狭く感じることもある。 (食事時など) 折りたたみテーブルやイスを活用し、臨機応変に座れる場所を確保していくようにする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	人員基準を遵守して職員の配置をしている。	特定の職員に負担がかかってしまう場面も見受けられるので、人材の育成に力を入れていきたい。 職員の配置数は適切だが、お子様の人数や状態等に応じて、支援の工夫が必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	事故リスクがあるドアなどを撤去し、事故に気を付けている。	照明工事や防球ネット工事を行い、更に環境を整えていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	室内でも運動できる十分なスペースがある。 冷暖房設備（エアコン）完備。 お子様が自由に遊びを選択できる。	建物の構造上、特に冬場の冷え込みが厳しく、暖房効果も低い点が課題。 トイレが古いので、改修も視野に対応します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	クールダウンのできる環境を整えている。	現在用意しているソファアーだけでなく、(体調不良時に休める) 簡易的なベッドも用意したい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	日々の記録をもとに、課題設定や目標の見直しを行っている。	目標設定や新たな課題をわかりやすく記録し、職員全員の意見が反映されるよう努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	3	保護者の皆様に事業所アンケートにご協力をいただいている。(毎年1回) その評価を真摯に受け止め、業務改善に努めている。	把握していない職員もいたので猛省。周知徹底を行う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	ミーティングを行っている。	一人一人の職員が、より自発的な行動や発言を行えるよう目指す。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	現在、第三者による外部調査は行っていない。	今後も必要性を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	事業所内の研修だけではなく、オンライン研修(外部)への参加などを行っている。	輪番制で、テーマを決めて発表する研修会・勉強会も今後開催していきたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	4	ホームページ上で公開している。 https://astrapporte.jp/	把握していない職員もいたので猛省。周知徹底を行う。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	1	保護者とのコミュニケーションの時間もとても重要な時間だと位置付けて、大切に実施している。	しっかりと職員間で共有し、きめ細かな支援を目指していきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	お子様の目線に立って考えるように心がけている。	共通理解が甘いと感ずることもあるので、徹底していきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	計画は「療育システム(HUG)」で職員がいつでも確認できるようにしている。	常に計画を頭の片隅において支援していくようにする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	事業所独自の物で対応している。	現状の把握ができるよう内容については、適宜見直しを行う。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		お子様一人一人に合わせた項目設定をして、支援を行っている。	常に計画を頭の片隅において支援していくようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	その日の利用児童の特性を考えて、立案している。	フィードバックが甘かったことを感じ、反省している。 活動の「狙い」もより意識して立案していくようにする。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	複数のスタッフが輪番制で、担当を受け持つことで、マンネリ化しないように工夫している。	個々人の手持ちのメニューのバリエーションを増やしていく。 また、季節行事なども可能な範囲で取り入れるように工夫していく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	(集団活動を基本としているが)発達の特徴や当日の児童の状態に応じて個別で対応し、集団活動へと移行できるように支援を行っている。	一人一人の成長や心の状態を考慮して計画を作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	当日の利用児童の特性を考えて、支援している。	スタッフ間の連携に努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	当日の活動状況や行動の様子を共有し、次につなげるようにしている。	振り返りが次の支援に生かせるよう、当日の様子や気づきの共有を大切にしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	記録をとり、次に支援すべき課題や内容の把握をしている。改善すべき点は明確に記載するようにしている。	情報管理を徹底し、改善すべき点は直ぐに改善すよう努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		6か月に一度(必要であれば期間を短縮)行っている。	お子様の成長・発達を踏まえ、適宜計画の見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6	1	状況に応じて、必要な活動をいくつか組み合わせ合わせて支援を行っている。	お子様の成長・発達に応じて工夫を重ね、支援をしていく。 ガイドラインについての理解も深めていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		選択肢を設け、お子様に選んで取り組んでもらう機会を増やしている。 活動メニューもお子様の意見を反映して行っている。	今後も継続実施し、充実を図る必要がある。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		職員育成の観点から、指導員も同伴で積極的に参加する機会を設けている。	会議参加に当たって、必要最低限の知識を日頃から個人にて蓄積しておくようにする。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	ケース会議などで情報共有を行っている。	今後も継続実施し、充実を図る必要がある。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	6	1	適切に連携を行っている。	(担当の先生によっては)あまり共有をしてくださらない場合もあるので、こちらからアプローチをしてコミュニケーションを取っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		7	現状、就学前に過ごしていた保育所や幼稚園などと情報共有した例はないが、スムーズに支援移行ができるよう努めている。	相談支援事業所や児童発達支援事業所との情報共有に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		相談支援事業所から情報提供の依頼があり、行った事例がある。	障害者福祉サービス事業所からの求めがあった場合には、ご本人及び保護者の方の同意を得て情報提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2	連絡をいただいた会議に積極的に出席している。助言・研修などを受け、支援に生かすよう努めている。	「茨城県発達障害支援センターCOLORSつくば」や、その他専門機関の研修に参加している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	(学校休業日に)近くにある「ボプラ児童館」へお邪魔させていただき、交流を図っている。	地域の方との自然な交流を大切にしながら共生社会の実現に取り組んでいく。インクルーシブ教育について学びを深めていく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	2	5	現在、あまり参加できていないので反省。	まず、職員が「(自立支援)協議会」について知ることから始めたい。今後は、積極的に参加したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1	連絡帳や送迎の機会でお伝えしている。	職員によって、差があると保護者の方からご意見をいただくことがあるので、職員の教育をしていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	相談があった際や変化を感じた際には連絡を取り、療育での対応をお伝えしたり家庭で参考にできることを提案させていただいている。	個別の相談時間を設けてペアレントトレーニングや関わり方、対応の仕方などの支援も今後行っていきたいと検討している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		新規契約時にご説明させていただいている。ご利用されている中で感じた質問などには速やかにお答えできるよう対応している。	ご不明な点、質問などにはその都度お答えしていくよう努める。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		「受容・傾聴・共感」の姿勢で意向を確認し、その内容を十分踏まえて作成している。	今後も継続実施し、充実を図る必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		丁寧に説明するように心がけている。	今後も継続実施し、充実を図る必要がある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	相談にはその都度お伺いして対応しているが、必要に応じて日時を改め、助言・支援なども行っている。ご来所が難しい方にはお電話での対応も行っている。	保護者の方が子育ての悩みや相談がしやすい環境や関係を作っていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	「親子サッカー」にて、交流の機会を設けている。	今後、開催の回数を増やしていければと検討している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		管理者を中心に迅速に対応し、課題解決を行っている。	職員間の共有のスピードと質を上げて、課題の早期解決を行っている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	事業所新聞や、アプリ、HP、SNSなどで発信している。	より分かりやすい情報発信を常に心がけている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		細心の注意を払っている。 また職員の入職時には、個人情報保護に関する説明と誓約をお願いしている。	個人情報の取り扱いに関しては今後也十分に注意し、徹底していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		お子様一人一人の発達特性や成長に応じて、分かりやすい方法や手段を考えて対応する。(ジャスチャーや絵カード、文字にルビを振るなど)	お子様や保護者の方により分かりやすく伝えられるように努める。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7	現在、うまく行うことができていない。	招待できるイベントを考案したい。(夏祭りや縁日など)
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	マニュアルを整備し、訓練を行っている。	「周知」の部分が不足しているので、力を入れたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		定期的に行っている。	今後も継続実施し、充実を図る必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		新規契約時とアセスメント時に、定期的に確認を行っている。	それぞれの症状に合わせた知識を身につける。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		保護者の方の申し出に応じて対応している。	アレルギー疾患に対する知識を身に付ける。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		定期的に行っている。	今後も継続実施し、充実を図る必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2	ホームページ上で公開している。 https://astrapporte.jp/	「周知」の部分が不足しているので、力を入れたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	他事業所の事例なども利用しながら、職員間で共有している。	再発防止策を風化させず、安心・安全につなげていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的に行っている。	今後も継続実施し、充実を図る必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		今まで身体拘束を行ったことはないが、必要に応じて計画書に記載し、保護者様に説明、了解を得た上で行うようにする。	安全を第一に考え、「やむを得ない」とはどのような場合なのかを、保護者の方と細かく話をしながら計画書に記載していく。	